夕刊 磐城新聞
八月五日發行
定價 一ヶ月 金六拾五錢（郵稅拾五錢）
廣告料金 普通欄 金六拾錢 特等欄 金九拾錢（五號十二字詰一行 場所指定一行増同）
編輯印刷兼發行人 柏木衍
福島縣石城郡平田町十六番地
發行所 磐城新聞 合資會社
送金受付所（タイライワキ）平局私書函第十二號 電話五六〇四番
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇六〇八五五番

袋中上人に就て（五）

淨土宗教學部長 江藤徵英師講演概要

○生ける教化

上人が琉球に渡るや、その淨土念佛の感化教導に慕ひ集るものが非常に多く、時の國王尚寧王も上人の學德に敬服歸依の餘り前述の如く桂林寺といふ一宇（いまの那覇市松本町縣立病院敷地）を建てゝ上人を迎へた程である。その數多信者のうちでも特に儀間眞常公は上人への歸依が最も深く、師弟として直接な關係を持つてゐた人である。

更に、我々が上人の生涯を研究する上にりう球中に於ける産業方面の開拓、貢獻の少からざることを沒することは出來ず、三百餘年を經た今日、大きな力を以て輝いてゐるのは一に上人の惠みによるものと稱しても過言ではあるまい。即ち眞常公をして生ける大衆教化のため力を盡させ甘藷の普及とか、砂糖製造、或は木綿の紡績等についてこれが指導普及に努めたものであるが、念佛精神を産業、工藝方面にまで活用した人は先づ上人をおいて他にあらうか。眞常公の功績もまた沒することは出來ない憧れの明國には渡れず、從つて一切教の研究も出來なかつた上人とは云へ、僅か滯りう三ケ年間、一切教研究の烈い信念によつてりう球開拓の先導をしたことはまことに後世の龜鑑と云ふべきであらう。

○著書二つ

南洋サイパン島にも、片言ながら南無阿彌陀佛を稱へさせた上人の學德、これこそ躍進日本の力を南へ延ばさうとする力强い現れに外ならない。淨土念佛の普及の傍ら、上人はりう球神道記五卷、りう球往來一卷を著した。前者のうち初めの三卷は三界のことから印度支那のことを記述し、第四卷以後はりう球の佛寺のことが書いてある。これは當時の宗教士俗を知る唯一の文献資料であり、甚だ貴重なものとされてゐる。又後者は二十八ヶ條に分け書札体を以て書かれた庶民教育物でその頃彼の地に行はれてゐた事柄を見聞のまゝに記載しそれに縁起註譯を加へたのである。これによつて日本文化の南進、支那文化の影響等がよく見られることが出來る。

けふの日

○

8月9日

△伴天連宗と喫煙を禁ず（慶長一六）△テニスン生（一八〇九）△米騒動起る（大正七）△田島選手三段跳に世界記錄を作り優勝（昭和一一）

一つの落度を言ひ拔ければ二つの落度となる 佛國俚諺

旅衣思家（其の一）

球雲 小野勝平

兩打客窓追感新
百花零落總歸塵
夢中事來徒鄕貫
千里我猶雲水身

五月雜詠

保夫

○わが庭も若葉明りに日のながし郭公郭公よく徹りくる
○幾株の庭樹の齊葉しづかなり吾子は一し砂遊びする
○田につづく堀割の水すみ透り芹叢明り水鷄鳴きつつ
○梅雨もののしづかに煙る朝蠶は生れにけり部屋深めゐつ
○雨降るに軒下に燒く籾殼の匂ひ蠶と居る部屋にながらふ

入道雲

花澤豊

お空に浮いてる
入道雲
見てゐりやとつても
面白い
むく／＼流れて
行くたびに
いろんなかたちに
變ります
あれあの雲は
兎さん
朝鮮半島に
よく似てる

嵐の夜

ひゆう／＼吹くのは　風の音
ざあ／＼降るのは　雨の音
誰だかおもてを　かけてゆく
ベタベタ／＼　靴の音
父さん夜業で　まだ來ない
だん／＼はげしく　なつてきた
母さんのおそばに　ゐるけれど
おふとんかぶつて　ねちまをか
それでもなんだか　氣にかゝる
父さん來るまで　起きてませう

講談 隱密小天狗（おんみつこてんぐ）(92)

中川雨之氏作 近藤鐵氏畫

夜の休息室

いまや、お蝶の全身には戀の熱血が渦まいた。彼女は、我と我が心を制し切れないほど、一途に戀の勝利を目指してゐた。そしてぴたりと俊作に寄り添つて、その手を固く握りしめて、嶺潮無げに搖り動がすのであつた。

俊作に、それを探り出す術は、無いではなかつた。しかし甘言で彼女を籠絡して、聞き出すといふやうなことは、級女の眞劍さに對して、彼の良心が承知しなかつた。

俊作は、お蝶の胸を抱きしめてゐるその秘密を、どうかして摑もうと、いろ／＼言葉を盡して說いてみたが、戀に燃え立つ女の一念に、ぴんと下した錠前は容易に開く術は無かつた。

そこへ、折惡く人がやつて來たこの邊の田舎の若い男女が、庚申堂で戀の逢瀬を樂しもうとして近づいて來たのであつた。

二人は、驚いてお堂の縁[illegible]なかつた。本意ないことではあるけれど、その夜二人は、空しく別れたのであつた。

別れて田圃道を闇の中へ消ねて行くお蝶の悄然たる後姿を眺めてゐると、俊作には『あゝ可哀想だ』といふ氣持が湧いて來た。

そのことがあつてから二日目の夜のこと。俊作は、牛込の正雪の屋敷へ來て居つた。

小夜美の身請の一件があつてから、彼はしげ／＼と正雪の屋敷へ出かけるやうになつた。

從つて、正雪を始め、他の浪士たちとの間に、だん／＼交際が開けて行つた。もし伊豆守の想像通り、正雪等に怖るべき陰謀があるなれば早晩きつと正雪から何か相談でもかけられるに違ひないと胸に一物、俊作はひそかに正雪の行動に注意を拂つてゐた。が、どういふものか、何時まで經つても、膿んだとも潰れたとも言はない。それは啻に正雪ばかりで無い丸橋忠彌でも、金井半兵衛でも、乃至は柴田三郎兵衛でも、ただ普通人としての交際を仕向けて來るだけで秘密のひの字もありさうな素振りはなかつた。

俊作は、時々小首をひねらずに居られなかつた。

大體、正雪を中心にしてこゝへ集つて來る浪士たちの樣子に注意してみても、誰にも怪しい樣子はちつとも見えない。いつも皆朗かに、ワイ／＼と愉快さうにして何の屈託も無ささうで[illegible]。

若しも、大それた陰謀などを企てゝゐる連中だとしたら、恐らくこんなに暢氣には、構へてゐられないはずである。

『すると、正雪といふ人間は、やはり普通の兵學者に過ぎないので、それを警戒するのは、反つて伊豆守の取越苦勞かも知れない』と、そんな風にも考へられる時さへもあつた。

ところで彼は、今夜も、いつもの廣間で、浪士たちと一緒に遊んでゐた。

その廣間といふのは、浪士や門弟たちのために解放された休憩所兼娛樂室といつたやうなもので碁盤や、將棋盤の用意もあるし、時々大きな土瓶に麥湯をこしらいて小使の爺さんが、持つて來たり、先生からだと言つて果物や菓子などが運ばれて來た。

おまけに四方の窓から、涼しい風が吹き込んで來てそれが夏の夜には、この上もない御馳走である。だから毎晩のやうに、大勢の浪士が集まつて來て、まるで小兒のやうに、遊び戯れてたいがい四刻がすぎるとゾロ／＼歸り始めるのであつた。

スピート時代に
パーマネント
健康美時代に潑剌と
オゾン美顏術
婦人御洋服に パーマネント 値段（全部四圓 外三圓）
水野化粧院
平市驛前 電話（營業六七八 自宅五二五）

「岐阜及新盆名入提灯」
每度難有ク御禮申上マス
岐阜提灯ハ新柄山程積ンデ薄利正札ヲ以テ勉强致シマス
名入提灯ハ各形揃ヘ御注文ニ應ジマス
是非御用命願ヒマス
平 三
落花生問屋 加藤提灯部

◎お盆提灯に御注意!!!
近年各地に於て再製提灯が市場へ出る爲めお贈りの方も頂いた方も誠に迷惑され失禮にもなりますので製造者の間で相談の上今年の品物へは必ず 昭和十三年製寅印薄紫紺色マークを入れてあります。御買求めの際は必ず御忘れなく昭和十三年製マークスと御指命下さい。
昭和十三年七月
提灯同業組合

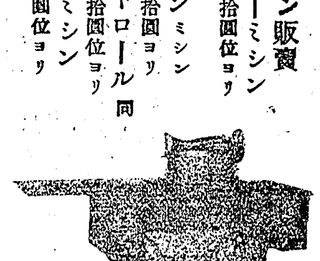
內臟外科一般
外科花柳病科（入院隨意）
平市六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話 三〇九

ラヂオの故障は―放送局指定相談所へ
ラヂオの故障の多い季節になりました。
修理は測定裝置技術完備の弊店へ
放送局指定ラヂオ相談所
HK受信機配給所
富永ラヂオ店
平驛前 電話四九六番

吸入酸素
モノサシ マス ハカリ
體溫器 寒暖計
開內藥局
電話四〇番

或は下痢或は胃腸を害ねたりして三日四日も便通がなくて頭痛を覺ゆる御方はキキメの早い
靈効散 胃腸藥 を御試し下さい
胃腸病。心臟病。腦。痔。適應藥
三年五年と患ふ慢性胃腸病が全快した人が澤山あります御望の方には見本藥一日分を差上げますから御遠慮なく御來局下さい。
平市古鍛冶町縣社ノ下
處方箋調劑所 阿康藥局
電話 四四番 振替口座東京三〇〇六五番
定價 五十錢 八日分 壹圓 廿日分
御子樣方には飲み易い小兒靈効散があります。

ミシン販賣
◎シンガーミシン 百八拾圓位ヨリ
國産
◎ニツポンミシン 百三拾圓ヨリ
◎同コントロール同 百四拾圓位ヨリ
◎ホームミシン 參拾圓位ヨリ
ミシン專門店
（平市驛前大田町通リ）
シンガー洋裁女學院
石川ミシン商會
良品廉價 優秀品推奬
◇附屬品修繕賃貸金融不用ミシン買入、國産ミシン特約販賣



醫學士 吉田久雄
吉田眼科醫院
平市紺屋町 電話六八番

今般副院長として高橋俊幸氏を招聘し「內臟外科・一般外科・皮膚泌尿器科」の診療に從事せしむ
平病院（平市元共濟病院跡 電話六四一番）
院主 院長 醫學博士 鈴木定藏
內科 院長 鈴木定藏
小兒科 部長 佐藤幾要司
內臟外科・一般外科・皮膚泌尿器科 副院長 高橋俊幸
レントゲン科 部長 鈴木定藏
物理的療法科 技師 吉川元雄
藥劑科 部長 吉本孝平
診療時間……每日午前八時ヨリ午後九時迄、夜間診療ニ從事ス（急患ハ此ノ限リニアラズ）

夏期氷價廣告
夏期中氷價左ノ通リ相定メ候間此段謹告候也
昭和十三年七月一日
福島縣製氷工業組合
平市 一貫匁ニ付 拾四錢
三貫匁以上 一貫匁ニ付 拾二錢
內郷、湯本、好間、草野、上、下小川、勿來、植田 一貫匁ニ付 拾六錢
小名濱 同 拾四錢
泉 同 十四錢
四倉 同 十一錢
同 拾四錢

敬神崇祖皇國精神
祭壇賑はす うら盆提灯
戒名入提灯……岐阜提灯
スガノヤ提灯店
平市四丁目電話九五番

ダイナモ バツテリー マグネツト 礦山用エンヂン
久野電機
平市紺屋町五三
電話 七二一番
振替東京一五、一〇四番

耳鼻咽喉科專門
平市南町一六番地
大和田醫院
（入院隨意 病室完備）
電一七〇番

今年の様な夏には却て多く水を使ふ
些か變態的な洗濯統計

水銀柱と使用水量のメーターとは例外無しに正比例して上下するものと思ひきや決して左様で無い事實が市水道部の記錄が最も正確雄辯に物語つてるから些か意外である。即ち雨、曇りの連續で蔭張り夏氣分がなく此の分では晩春から眞夏を缺きで初秋に直行するでは無いかとさへ想はれる今夏の上水道使用量を見ると去月中の最低二日三、三八六立米（一八、六一七石五斗）最高＝二十日＝四、四七五立米（二四、六一二石五斗）で前年同月中の最低二、九八〇立米（一六、三九〇石）最高四、二八五立米（二萬三、五百六十七石五斗）に比べ遙かに多い事になつてゐる、右は惡天候に因つて山積した洗濯物などを天候同復と同時に一度に處理する等の關係から來たもので陰鬱な空模様に終始した去月中が昨年のそれに較べて遙かに多量の水を使つた所以である。因に市部現在の上水道利用者を三萬人と大摑みにして一日一人當りの消費數を極めて大數的に概算すると一石六斗六升六合六六と云ふ驚くべき數字に上るが、市上水道に於ける現在の機構は昨年堰の大改修を行つて以來非常にその機能を増大し、今日以上倚は多量を使用しても事欠く様な虞れがなく現在月收五千圓の使用料金は今後に少からぬ膨脹性を有してゐるとの事である

農林省の助成で一路理想鄉建設へ
輝かしい好間村の將來

經濟更生指定村として村を中心に緊密な連絡をとり一路理想鄉建設に邁進してゐる好間村は昨報の如く農林省第三年度の特別助成村に指定された、本郡ではさきに指定を受けた渡邊村と共にこれで二ケ村である、右は當初更生計畫樹立の好成績によつて初めて指定されるものであり今後大体一萬餘圓の助成金によつて輝かしい更生への首途に立つわけである

尚農林省では更生計劃樹立ー當つては當初より增産計畫に主力を注ぎ歩同作業場を設置し農業の機械化を圖り農村工業を奬勵して各地に工場施設を設けて來たが、この經濟更生諸施設は[illegible]漸くその眞價を發揮し勞力不足による農業の機械化等に當つて着々効果を擧げつゝあるので、同省では更に今後一層設施の擴充强化を圖らんとし本年度特別助成町村についても特に勞力調整資源開發等について適切なる計畫を樹てしむるやう指導する方針であると

先づ國債で御奉公
標語消印で趣旨强調

平局に於ける支那事變國債賣出しは大体昨報の通りであるが、局では此際一層その趣旨を强調すべく二十二日の賣り出しに先ち來る十日から一般郵便物に對し『先づ國債で御奉公』の標語入り消印を使用すると

江名町同馬巳久喜、四倉町同新妻唯一郎、渡邊村一等兵鈴木保芳、入遠野村同大木正雄、湯本町同菅野太作、大浦村同渡邊滿、上遠野村同馬上文哉

より三日間行ふ筈であつたが天候不順と八日は舊盆十三日に當るので十三日より三日間に延期され抽籤日は十五日平市會議事堂内に於て執行する事になつた

武勳は輝く
兩角部隊戰傷兵

兩角部隊で去る蒙城戰等に名譽の戰傷を負うた勇士中地方關係左の如し

（平市）鎌田町上等兵猪狩滿好

（石城）植田町上等兵江尻源治、大浦村同木村源平

平商勤勞作業けふ無事終了

平商業學校の暑中休暇中に於ける勤勞作業である同校建築敷地の地均し作業は去月二十九日から行つてゐたが五日正午終了した、市からこの奉仕作業に對し茶話會費三十圓、慰勞金百圓を贈られたが百圓は樹苗を購入、新築母校を飾ることゝなつた

大須賀衛生課長初巡視

新任本縣衛生課長大須賀武氏は初巡視のため今五日來平、平署、平保健所、市役所、平細菌檢査所、豊間回春園を視察市内住吉屋本店に一泊の上明六日植田方面に向ふ

平染色加工組各創立
時局に善處すべく
八日マルトモで發會式

全國的な物資統制中、綿製品の加工制限は極めて大衆的に廣汎な影響を有する丈けに之れが善後措置に就ては關係當業者にとり今後重大なる檢討をなさねばならず隨つて同業の聯絡提携を必要とする事愈々切なるものあるので、市内營業者卅五名は此程平染色加工々業組合を創設する事となり、來る八日正午からマルトモホールに於て發會式を擧げ、會則制定、役員選擧、事業計畫等を附議決定の上時局對處の最善を期することゝなつた

婦人團体家庭經濟强調

平市各種婦人團体では來る十五日からの經濟戰强調週間（昨報來月は誤り）を前にし『國防は家庭から……』を目標に昨非常時家庭生活實踐事項を印刷したチラシ數千枚を配布、各家庭の主婦に呼びかけることゝなつた

驅蠅デー日取變更

市内長橋町いはき新報社主催第六回傳染病豫防懸賞蠅取デーは來る八日

方面委員時局對策協議
十二日第三小學校で

現下非常時に際し方面委員の活動に俟つべきもの多々るに鑑みた縣では來る十二日午前九時から平第三小學校に平市並に郡部の方面委員時局對策協議會を開き、軍事援護の徹底非常時經濟への協力、社會調査の徹底、國民健康保險法施行の各指示事項及び非常時國民生活刷新の具體的方策に關する協議事項を審議する

參會者は市町村長、方面委員、郡市關係吏員で午後四時閉會の豫定

。。。。。。

矢ケ崎技手出張

神谷農試分場矢ケ崎技手は七日から四日間双葉郡農會主催で廣野、浪江、富岡各小學校に開かれる中堅農民養成講習會に出張

あす第二校同窓會

平第二小學校の同窓會は六日午後一時から開くが時局に鑑みて餘興は取止め、千葉校長の講話後皇軍の武運長久を祈願

四倉から 平第一校臨海學校便り
(5)

八月四日、雨

一、昨日一日たつぷりと
海で遊んで午後の四時
入浴時間誰も皆
帽子の跡とふんどしの
跡がはつきりついてゐた

二、肩がヒリ／＼するけれど
鏡に映る黒い顔
家に歸つて父さんや
母さん達は何と云はう
鏡の僕が笑つてた

三、張り込んで居た今日五日
あいにく雨が降つたけど
朝の自習の其の後で
明るくなつた空模様
勇躍濱へ行進だ

四、海は荒海砂原は
人影さへも見當らず
しつとり濡れた砂の上
ドッチボールにベースボール
元氣に遊ぶ赤ふん隊

五、間もなく煙る海の上
斜にしぶく霧時雨
シャツを脱ぎ棄てかへ込んで
赤ふん隊の退却だ
チリ／＼蜘蛛の子の様に

六、午後は午睡と自由時で
ぼんやり半日過したが
窓の外には霧時雨
昨日にまさる波の音
トランプ遊びももう飽きた

七、夕方霽れ間入浴に
行つて戻りの浴衣がけ
涼しい風に氣も霽れて
臨海學校後三日
天氣になれよ第六日

〜◇〜

陣中を聽く
……………（204）……………

敗殘の眞相が判り支那人間に大動搖
元入山從業員 杉浦千代治君（通信）（二）

取り亂された市内も苦力によつて隨時整頓されて參りました。入城前迄抗日一色に塗りつぶされてゐた〇州も我方の宣撫宜しきを得て抗戰空氣もどこへやら消滅に歸して居ります。先月て眞の日支親善に轉向し歡迎日本軍各部隊又は皇軍我們的救星などのスローガンを各所に貼りめぐらし中央の時計臺（高さ百五米）に大幅の白布に百性困苦焦土國家在國民黨的抗日とか歡迎正義皇軍潰滅盜鬼赤匪の大旗が空中高く飄へり吹く

一支那人の話を聞くに李宗仁は常に我々に『我が軍は各地に於て敵軍を破り各方面の戰鬪に大勝利を博しつゝあるから民衆は各戸ごとに醵金して前線將士の慰勞會を催して氣勢を揚げてゐた。はからずも五月十二日警備兵が俄然色めきたつてうかぬ顔をして歩く將士の顔を見て幾分かの疑惑を感じてたが敗戰とは夢にも知らず過して居る中五月十五日〇〇方面より一將校の入城に依り日軍は〇〇方面を占領せりとの報をもたらせるや民衆は極度にざわめき中には興奮の餘り『李宗仁の王公』（チンバー）（大馬鹿野郎）絶叫したのを官憲の耳に入り後銃殺された。午後全市民に急ぎ避難すべしの命出るや群衆は戰敗を確認し取るものも取り敢へず西南方に逃走して〇〇部落の一隅に三日三晩も何一つ食はず潜伏中日軍に救助された』と語つた最近避難民收容所が各所に設置され收容數は一ケ所に五百名第三收容所まであつて今後益々多きを加へて參ります

不相變頑健
市内田町出身 佐藤市四郎曹長

愈よ酷暑堪へ難き折柄御尊家皆様御壯健に御過ごしの事と拜察仕り候、降て私事も出征以來お蔭にて元氣旺盛益々君國の爲め奮鬪致し居り候間何卒御放念下され度先は暑中御見舞旁々御報知迄如斯に御座候。

靈前に花一輪
床し久の濱驛員

久の濱驛では數年前からホームの傍らに『花壇』を設け、旅客の旅愁を慰めて來たが、昨今ではこれを白衣の勇士や、武勳を輝かせて凱旋した無言の勇士の祭壇に捧げるのでこの床しい驛員の心根は感謝されてゐる

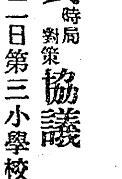
折れた肋骨胸部へ
ズリ捨場で雜夫奇禍

磐崎村小野田炭礦坑夫酒井久之助（四八）は四日午前七時頃同礦のズリ炭車を捲上げ作業中、バンドが切れてトロが逆行下方ズリ捨場で作業中の同礦雜夫大西金藏（五八）に激突、折れた肋骨五本のうち一本が更に大西の胸部に突き刺さつてその場で絶命

乙種臨海學校
平第一校 第一信

樂しみに待つてゐた臨海學校の第一日目が遂に來た。朝早く起きて一番先に空を見た、何だ曇かと思つたがうれしくてたまらない。やがて平驛の前に集つた。みんなにこ／＼して元氣一杯である。時間が來たので八時二十分の汽車に乘つた。『ピヨウ』と云ふ汽笛と共に發車した、間もなく夏井川、すぐトンネル。皆が『わあつー』と聲をあげたトンネルを出ると一面の青田だ、電線が窓の外に高くなつたり低くなつたりしてゐる。廣くつゞいてゐる田圃がぐるつと廻る様な氣がする。間もなく停車場へついた。誰かゞ『もう降りるのか』ときいた『まだ草野だよ』といふと『なあんだ』と言つて、リユックサックをおいた、汽車は又勢よく走り出した。四倉についた行儀よく並んで下車し、仁井田海岸に急いだ、町を通り拔けると、松林が見える『もうじきだ』と皆が言ひ乍ら松林を通つて川端へ出た。大變ながめがよいのでみな大喜びである。早速服をぬいで運動着になり、先生の元氣な號令に合せてラヂオ体操、すぐ船に乘つて向ふ岸に渡り砂濱に出た太平洋の波がどゝん／＼とさか巻いてゐた。みんなうれしさうに砂遊びをしたりかけ廻つたりしてゐる。その中に相撲が始つた。『ハツケヨイ、ノコツタ／＼』玉錦や双葉山になつた樣な氣持で一生懸命頑張つてゐる川で水泳をしたり鬼ごつこをしたりしてゐる中にお晝になつた。百人以上のもの人が一緒になつて御飯を食べる有様は本當に見事だ。腹がへつてゐるので皆とてもよく食べる『御飯ちやうだい』といふ聲がそこ、こゝに聞ゆる。にぎやかだ、中には澤山食べて腹をさすつてゐる人、又何時迄も坐つてゐて、ぴつこを引き乍ら立上る人、いろ／＼あつた。みんなうまさうににこ／＼して食べてゐる。午後は砂山を作つたり、キックボールをしたりして元氣に愉快に遊んだ、おやつを戴いてみんなで食べると何でもおいしい。夕方たのしい今日の一日を終つて停車場へ急いだ、明日も元氣で面白く遊び大いに身体をきたへませう。

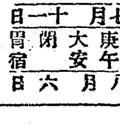
艶罪黑白



◇白晝に於ける時節柄あるまじき醜者と猥褻男の痴漢亂舞事件は各方面に一大センセーシヨンを捲き起したらしく◇海の湯でも髮結ひさんでも寄ると障ると此の話しで持ち切つた結果『だれかと思つたらあの人！イケ好かないワ』◇と云ふ事になり今ではたれ知らぬ人もなく、からだが小廻り丈けに其のすばしつこさを驚かれて居るが◇あの女將だつて海千山千、お尻にカキ貝が附いてる位のトーチカが其れを見たとて現實暴露の悲哀を感じてポカンとする程◇斷じて氣のよい事が無い。◇と最近或る方面から讒念入りな物云ひが附いた、とは何處迄も面どうなよの中ではある々其れにこした處で自分の女にそうした脱線をされ乍ら『玉無しで遊べるのはボク一人だつべ』◇なんてあごをなで廻して居る男の顔は、フヤケてることさながら夏の牡丹餅の如し、なんて失敬なことばよせよだつて◇兎角料理屋の景氣はゴムまりの如く一方が凹むと外の方が膨れる、それが證據に今迄五百本も賣つた家が◇九十本に減つたと思つたら九十本だつた別な家が五百本にふゑた。借金の出來たのがシートなチコンザした爲めとある

六日（小名濱測候所發表）

滿潮 前一二、〇〇 後一一、〇〇
干潮 前五、二〇 後三、五〇



舊七月十一日 土曜 庚午 大安 閉 胃宿 新八月六日

諸判定所 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 終身路をゆづるも百歩をまげず先を越すは凶▲二黒 失意の底より追々とうき上る活氣の滿つる日▲三碧 外事は兎角面白からず内に居り自重すべし▲四綠 自分でも思はざりし事に不圖手出し苦む日▲五黄 無移りのせぬ樣從來の業を眞面目にはげむ日▲六白 四方にめを配り大勢を見逃さぬ樣にすべし▲七赤 多少外界の支障はありとも進路に差支なし▲八白 陰遁の日營業又は商業擴張には第二の好期▲九紫 さうゐた誤ふ時は意外の失敗を招くことあり

故加藤政英戰死新盆の處靖國神社合祀前にも有り且つ時局柄總ての行事取止め候條乍勝手提灯其の他一切の御贈與等固く御辭退申上候不惡御了承の程を希上候

內鄉村小島 加藤武久

眞覺院新盆に就きましては甚だ勝手ながら時節柄提灯其の他贈與の儀御辭退申上度何卒御了承願ます

平市南町 芹澤キヌ

空冷式 健康陶枕

笑はれる程よく眠れる、疲勞倦怠を快復し精力記憶力を增進する實用新案の健康陶枕

腦が酷使する人、腦神經衰弱の人は勿論……この空冷式健康陶枕を……

効能 高血壓症 腦溢血症 不眠症 のぼせ症 耳鳴、頭痛症の方に特に卓効あり

特約店 平市五丁目 入江陶器店 電話五八二番

低溫殺菌

斷然ー賣行よし 信用と品質と共に備つて

平市鎌田町 電話五一

岡田牛乳

讓地

市内閑靜の場所、宅地四百坪中住宅と現に月收四十圓ある貸家三戸あり

（姓名在社）